資料１－２
全国的な学力調査に関する専門家会議（令和８年度第４回）
2026年11月26日（木）15:00～15:30

令和９年度全国学力・学習状況調査
経年変化分析調査及び保護者に対する調査について

調 査 概 要

	経年変化分析調査	保護者に対する調査
調査目的	全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、28年度、令和３、６年度に続き、５回目）	家庭状況と学力等の関係について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てる（平成25、29年度、令和３、６年度に続き、５回目）
調査実施日	令和９年５月11日(火)～５月28日(金)の期間中、対象学校が実施可能な日時 ※抽出校の都合に応じて、６月４日（金）まで実施可	令和９年５月11日(火)～６月４日(金)
調査対象	統計的な手法に基づき厳格な抽出を行った結果選ばれた国・公・私立の小学校第６学年、中学校第３学年の児童生徒	本体調査及び経年変化分析調査を実施した児童生徒の保護者
調査内容	国語、算数・数学、英語（中学校のみ） （調査時間：小学校40分、中学校45分（※）） ・問題冊子は、国語、算数・数学は13分冊、英語は２分冊で実施。 ・出題範囲は、原則、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項。 ・出題内容は、我が国の国語、算数・数学、英語の能力を中長期的に測定していくことができる内容としている。 ・各学校では、いずれか１教科を実施。 ・CBT・PBTを併用して実施 （※） 英語は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を45分で実施し、別途「話すこと」を５～10分程度で調査	保護者を対象に、児童生徒の家庭における状況、保護者の教育に関する考え方等について質問調査を実施 ・全面CBTで実施

◆ **標本学校数**

	PBT実施校（※１）	CBT実施校（※２）	合計
小学校	国語・算数　各300校 （約３万人）	国語・算数　各300校 （約３万人）	1,200校 （約６万人）
中学校	国語・数学・英語　各250校 （約７万人）	国語・数学・英語　各250校 （約７万人）	1,500校 （約14万人）

（※１）PBT実施校：経年変化分析調査において、冊子を用いた筆記形式で調査を実施する学校
（※２）CBT実施校：経年変化分析調査において、児童生徒が活用するICT端末を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式で調査を実施する学校